

報告事項ソ

平成20年度地方教育行政功労者表彰被表彰者について

平成20年度地方教育行政功労者表彰被表彰者について、別紙のとおり報告します。

平成20年10月16日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

平成20年度地方教育行政功労者表彰被表彰者について

教育総務課

1 表彰趣旨

地方教育行政において、その功労が特に顕著な教育委員会の委員に対して、その功に報いるとともに、地方教育行政の発展に資するため、文部科学大臣が表彰するものです。

2 被表彰者

氏名	年齢	主要経歴
にしおひろひと 西尾博仁	72歳	前倉吉市教育委員会委員長
とくだようすけ 徳田洋輔	64歳	三朝町教育委員会教育長

3 表彰式

- ・日時 10月16日(木)12時20分から
- ・場所 東京都千代田区 「文部科学省講堂」

4 被表彰者の主な功績 別添のとおり

被表彰者の略歴及び主な功績

西尾博仁（にしお ひろひと）	
略歴	<p>倉吉市教育委員会委員（平成 8 年 10 月から平成 20 年 10 月） 倉吉市教育委員会委員長（平成 12 年 10 月から平成 20 年 10 月）</p>
主な功績	<p>学校教育 「開かれた学校・信頼される学校」を目指して、平成 13 年から年 2 回の「全市学校一斉公開」を行うとともに、平成 16 年から「倉吉市教育を考える会」を毎年開催し、多くの市民と課題を共有しながら教育の質の向上に務めた。 また、平成 18 年の鴨川中学校屋内運動場改築、平成 18～19 年の小鴨小学校新校舎と屋内運動場の改築を行うなど学習環境の整備に努めた。</p> <p>社会教育 多くの市民に利用していただく公民館づくりに取り組むとともに、図書館の充実のため、「読書のまち倉吉」を合言葉に、子供の読書活動の推進、ヤングアダルトサービスの推進、ビジネス支援、他団体との連携などを積極的に押し進めた。 また、平成 18 年の第 19 回全国スポーツ・レクリエーション祭では、倉吉市で年齢別バドミントン、壮年ボウリングの二種目を開催したが、市民が総力を挙げて取り組むよう自ら先頭に立ち積極的に取り組んだ。</p> <p>文化事業 倉吉市の文化財の国重要文化財の指定をはじめ、平成 10 年には「打吹玉川伝統的建造物群保存地区」の指定など有形文化財の指定に尽力するとともに、平成 13 年に完成した史跡伯耆国府跡法華寺畑遺跡の環境整備事業に務めた。 また、倉吉博物館では、郷土作家の前田寛治・菅楯彦を顕彰する美術展の開催や、全国規模の特別展を開催し、「文化のまち倉吉」を全国に発信する取組に務めた。</p>
徳田洋輔（とくだ ようすけ）	
略歴	<p>三朝町教育委員会委員（平成 12 年 10 月から現在） 三朝町教育委員会教育長（平成 12 年 10 月から現在）</p>
主な功績	<p>学校教育 「町民に開かれた教育行政」と「子どもたちを町民が支える町づくり」を目標に掲げた三朝町「文部（ブンブ）-向上計画」を平成 13 年に策定し、社会情勢や学校教育環境への対応、子どもたちの生活習慣の改善など学校、家庭、地域が一体となって子どもたちを育てる体制を整えた。 また、学校評価を積極的に取り入れ、学校内外から評価をし、支援を得ながら三朝町独自の学校評価のシステムを先進的に確立し、義務教育の質の保証に努めている。 さらに、平成 13 年度には県下に先駆け町内の学校の全ての教職員にパソコンの導入（貸与）を行うとともに、学校 LAN を整備し、情報化教育にも力を注ぐとともに、校務の効率化を進めた。</p> <p>社会教育 平成 14 年度からの完全学校週五日制に先んじて、平成 13 年度から町民ボランティアによる「夏休み学力アップ講座」を開設したほか、平成 14 年度には土曜日に「土曜楽校」を開設し子どもたちの居場所づくりに務めた。 また、平成 15 年に学校での取り組みから始まった「ノーテレビデー」の運動を、町民全体で取り組むべき運動として発展させ、平成 19 年 12 月 20 日に全国で初めての「ノーテレビデーの町」宣言が町議会で議決された。</p> <p>文化事業 三朝町に存する「国宝三徳山投入堂」を始め、多くの文化財を有する三徳山一体を世界遺産に、という運動を立ち上げ、平成十五年に「三徳山世界遺産登録推進協議会」を設置し、その活動に力を注ぐとともに、それら文化財の歴史的価値を明確にするため、三徳山全体の学術調査に尽力した。また、三徳山に限らず町内に点在する指定、登録文化財や豊富な自然の保護と保全にも努め、町の観光資源としての活用にも尽力した。</p>